

## 第26回日本医学会総会

第26回日本医学会総会(杉岡洋一会頭)は、2003年4月4日(金)～6日(日)、福岡での開催に向けて着々準備を進めており、すでに総会登録を始めている。

登録料は次のとおり、2003年1月31日まで割引になっている。

	1月31日まで	当日受付
医師・歯科医師・研究者	30,000	35,000
医薬情報担当者(MR)	20,000	25,000
卒後4年までの医師・歯科医師	15,000	20,000
コ・メディカル	5,000	8,000
学生・大学院生	2,000	3,000
同伴者	3,000	5,000

登録申し込み書は、日本医師会雑誌第128巻第5号(平成14年9月1日号)に綴り込まれている。その他何なりと、第26回総会登録事務局(電話:092-643-6837, FAX 092-643-7224)にお問い合わせ願いたい。

なお、<http://www.isoukai.com/>にアクセスすればオンライン事前登録も可能である。

## 第121回日本医学会シンポジウム

2002年8月30日～9月1日、パレスホテル箱根において「プリオン病」が開催された。組織委員は、金澤一郎(国立精神神経センター神経研究所長)、金子清俊(国立精神神経センター・疾病)、永井良三(東京大・循環器内科)の各氏であった。

プログラムは、I. プリオン病の臨床と病理、II. プリオン蛋白の代謝とプリオン複製、III. プリオン病の治療・予防法の3部をもって構成

された。

シンポジウムの詳細は、記録集として2003年2月頃に刊行される予定である。希望者は、日本医学会宛、郵便はがきで申し込またい(無料)。

## 第122回日本医学会シンポジウム

2002年12月5日(木)10:00～17:00、日本医師会館において「心不全診療の最前線」をテーマに第122回シンポジウムが開催される。組織委員は、和泉 徹、永井良三、堀 正二の各氏。参加希望者は、日本医学会に郵便はがきで申し込またい。参加費無料。

プログラムの概要は下記のとおり。

### I. 心不全の疫学と病態生理

1. 慢性心不全の臨床像と疫学/和泉 徹(北里大・内科)
2. 心不全におけるシグナル伝達とカルシウム制御異常/新井昌史(群馬大・内科)
3. 拡張不全・病態理解の進歩と治療への応用/高橋利之(東京大院・循環器内科)
4. 心筋再生の展望/小室一成(千葉大院・循環病態)

### II. 心不全の診断

1. 心不全の身体所見/小玉 誠(新潟大・器官制御)
2. 心不全の超音波診断/鄭 忠和(鹿児島大・内科)
3. 心不全の生化学的指標/葛本尚慶(滋賀医大・循環器内科)

### III. 心不全の治療

1. 急性心不全の最新治療方針/高野照夫(日医大・内科)

2. QOL・予後改善からみた慢性心不全の薬物療法/北畠 顕 (北大院・循環病態内科)
3. 慢性心不全に対するβ遮断薬治療/堀 正二 (大阪大院・病態情報内科)
4. 心不全の非薬物療法—両室ペーシングを中心に/笠貫 宏 (東女医大・循環器内科)
5. 心不全の外科的治療—補助循環・左室形成術・心臓移植/中谷武嗣 (循環器病センター・臓器移植)

### 医学賞・医学研究助成費の決定

医学賞・医学研究助成費選考委員会が去る9月13日に開催され、平成14年度の受賞者・受領者が決定した。授与式は11月1日の第55回日本医師会設立記念医学大会に際してとり行われる。

本選考は、日本医学会が日本医師会から委任されているもので、今年度の応募件数は医学賞15件、医学研究助成費70件であった。選考の結果は下記のとおりである

〈日本医師会医学賞〉

- ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の耐性獲得機構の解明と全ゲノム塩基配列の決定/平松啓一 (順天大・細菌学)
- ・先天性アミノ酸代謝異常の臨床分子遺伝—特に小児期高アンモニア血症の病態・病因解明と治療に関する研究/松田一郎 (熊本大 (名誉)・小児科学)
- ・生体肝移植の確立と普及に関する研究/田中 絃一 (京都大院・移植免疫医学)

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・ヒト癌で活性化されるシアリダーゼのシグナル分子としての役割/宮城妙子(宮城がんセ・生化学)
- ・生活習慣病の病態に関わる新たな内分泌因子の同定とその医学応用/下村伊一郎(大阪大院生命機能研究科・個体機能学)
- ・「2型糖尿病・小太り」に関する遺伝素因の包括的探索/武田 純(群馬大生体調節研・遺伝情報)
- ・癌抑制遺伝子 PTEN の生体における機能解析/鈴木 聡 (秋田大・生化学)

- ・生活習慣要因と大腸前がん病変の疫学研究/古野純典 (九州大院・予防医学)
- ・骨髄細胞を用いた再生心筋細胞の開発と細胞移植による心不全治療法の開発/福田恵一(慶應大・心臓病先進治療学)
- ・膵β細胞グルコース応答性インスリン分泌におけるNADHシャトル機構の役割と解明/江藤一弘 (東京大・糖尿病・代謝内科学)
- ・脂肪萎縮性糖尿病におけるレプチンの治療薬としての臨床応用に関する研究/小川佳宏(京都大院・臨床病態医科学)
- ・ウールリッヒ病におけるVI型コラーゲン欠損に関する病理学的及び遺伝子学的研究/樋口逸郎 (鹿児島大・内科学)
- ・ヘムオキシゲナーゼ1(HO-1)の多面的生理学的意義：世界初のヒトHO-1欠損症例からの学習/小泉晶一 (金沢大・小児科学)
- ・新しい脱細胞化同種/異種弁による弁移植医療の開発—至適脱細胞化弁の開発と自己細胞の誘導について—/北川哲也(徳島大・循環機能制御外科学)
- ・重症頭部外傷後に長期植物状態を呈している患者の意識回復過程に関する研究/塩崎忠彦 (大阪大・救急医学)
- ・間葉系骨髄幹細胞の増殖・分化制御による軟骨再生/内尾祐司 (島根医大・整形外科学)
- ・角膜の再生医療/木下 茂 (京都府大・眼科学)
- ・卵巣における内分泌攪乱物質(特にダイオキシンを中心に)の作用機序の解明/峯岸 敬 (群馬大・産科婦人科学)

### 認定医制についての三者懇談会

第26回認定医制についての三者懇談会が7月31日に開催された。

本年4月から専門医資格の広告が認められ、すでに日本麻酔科学会、日本整形外科学会、日本皮膚科学会の3学会の専門医が承認された。

また本懇談会では、三者懇談会の役割についても協議検討された。